



■ 大阪府出身 文学部3年

科学的アプローチによる
新しい考古学を発信する先駆者になりたいです。

Q 維持会奨学生として思うことは？

維持会の皆様のご厚情により、今後、より多くの時間を研究やフィールドワークなどの活動に充てることが可能となりました。深い感謝の気持ちと同時に大変な責任も感じております。これまで以上に気を引き締め、勉学や研究に励みたいと思います。

Q 一番興味のある授業は？

民族学考古学研究法という授業では、発掘調査で必要不可欠な光波測定器の扱い方や実測図の書き方を、フィールドワークを通して学ぶことができます。具体的には、港区周辺の遺跡や遺構の探索、歴史を積み重ねてきた三田キャンパス内の旧福澤邸跡の遺構や日吉キャンパスにある旧日本海軍の連合艦隊司令部地下壕を調査・実測しています。慶應義塾ゆかりの遺跡をフィールドにしなが、考古学の基礎的なノウハウを身につけることができる非常に興味深いものです。

Q 課外活動で力を入れていることは？

青森県と愛媛県の縄文時代遺跡、東京都の江戸時代遺跡での発掘調査では、発掘技法を学ぶと同時に、考古学のみならず様々な分野の著名な専門家との垣根を越えた交流によって新しい視点を養うことができました。今後は、パレスチナのベイティン遺跡での発掘調査、エジプトのアコリス遺跡でのミイラ調査参加などの計画があります。これからも専門性を高める努力を怠らず精進してまいりたいと思います。

Q 慶應義塾の良いところは？

自己啓発が盛んで、塾生一人ひとりがのびやかであり、常によき刺激を得ながらモチベーションを高められることです。そして何より塾員と塾生の縦横無尽のつながりは、かけがえのない財産です。

Q 今後、学生生活でチャレンジしたいことは？

より多くの遺跡に足を運び、文献資料を読み取り、そして専門にかかわらず、多くの研究者の方々と交流をして、歴史学、人類学、生物学、地質学、海洋学、さらには最先端のテクノロジーなど多岐にわたる分野の知識を習得したいと思います。

Q 卒業後の進路、将来の夢は？

将来は考古学者として、いにしえの人々のあり方を通して、現代そして未来の人々の実生活に公益をもたらす考察を進めることを目標としています。考古学研究は、多岐にわたる分野とのコラボレーションによって進められています。私は、安定同位体分析などの分野において科学的アプローチによる新しい考古学を発信する先駆者となることを望んでいます。